

数理・デジタル職に興味を持たれているみなさんへ

「ひと、暮らし、みらいのために」厚生労働省が大事にしているフレーズです。

『ひと、暮らしのために』、まず人々のニーズを捉え、どこに手助けが必要か把握しなければなりません。ニーズを踏まえ施策を実行するには、どれだけの資源（資金だけでなく人的資源も含め）が必要か、さらに、どこに、どのような影響が生じるか分析しつつ、最善の方法を探る必要があります。また、『みらいのために』、施策は長期的にどのような影響を与えるか、それによりニーズは将来どのように変化するかを見据えつつ、先手を打って実施していかなければなりません。さらに、巨大な社会システムを効率よく効果的に機能させるためにはデジタル化は不可欠です。これら全てにおいて、つまり、厚生労働行政を推進していく上で数理科学とデジタルは欠かせない存在となっています。

新型コロナウイルスへの対応において、デジタル化の遅れが課題となりました。一方、我が国は少子高齢化が世界で最も進み、労働力不足が懸念されています。今後もこの傾向が続くことを見据えると、デジタルを活用した効率化・省力化を強力に推進していくことは必要不可欠です。また、デジタル化が進めば、ビッグデータをもとに数理科学に基づく分析をますます深化させることも可能です。それにより、よりの確なニーズの把握、将来の変化を見据えた対応が可能となり、行政や社会保障の機能の充実、効率化を図ることもできるでしょう。このような数理科学とデジタルを活用した好循環を生み出していくことが、厚生労働省の数理・デジタル職に期待される役割になります。まさに、「数理科学とデジタルでゆたかな社会を」創っていくことがミッションです。

厚生労働省では、数理・デジタル職として、『国家公務員採用総合職試験』の「数理科学・物理・地球科学」及び「デジタル」の試験区分の合格者から採用を行っています。数理科学とデジタルの相乗効果を期待しているものです。

厚生労働省が担当する行政分野は、人々の日々の生活に密接に関係していることに加え、経済・財政に与える影響も大きいですが、急激に社会が変化していく中、様々な課題に直面しています。数学・数理科学やデジタルに関連する分野の素養を持ち、社会や経済に広く眼を向けて直面する課題の解決に尽力してみたいと思う方、そして、ひと、暮らし、みらいのために働いてみたいと思う方は、是非、このパンフレットに目を通してみてください。我々、数理・デジタル職の役割や業務を身近に感じていただけたと思います。



年金局数理課長
佐藤 裕亮

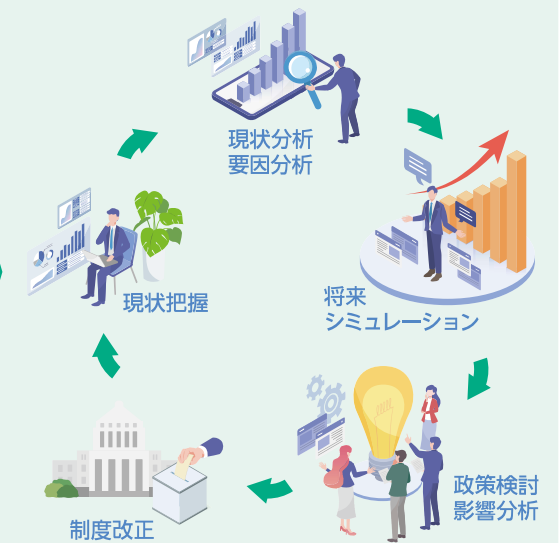
数理・デジタル職とは

国民一人ひとりの生活に寄り添った行政を実現するためには、人々のニーズがどこにあるかといった現状把握や、将来どのようなことが起こりうるのかといったシミュレーションを実施した上で施策を検討を行うことが重要です。

数理・デジタル系職員は、数理科学やデジタルに精通した人材として、論理的な思考力やプログラミング、システムの要件定義、ビッグデータの活用など数理的な素養やデジタルの知見を活かし、年金や医療保険、介護保険といった社会保障分野や労働分野における企画立案や現状把握のための統計の作成・分析、将来推計などの業務を行っています。

現状把握、現状分析、 将来シミュレーションを中心に 全てのプロセスに関わります

効果的な政策の企画立案を行うためには単なる思い付きではなく、現状を適切に把握し、データに基づき対策を講じることが不可欠です（これをEBPM（Evidence-Based Policy Making）と呼びます）。数理・デジタル職員は、EBPMを行うために必要な「現状把握」や「現状分析・要因分析」および「将来シミュレーション」に主に携わりますが、これにとどまらず、企画立案等の全てのプロセスに関わります。



数理・デジタル職員の武器は 数理科学やデジタル的な知識、 素養と行政スキルです。

行政官には人々のニーズを把握し、政策に結びつける能力が必要です。数理・デジタル系職員はこれらのスキルに加え、数理科学やデジタルの知識、素養を活かした物事を論理的に捉える能力やプログラミングスキル等を武器に日々の業務にあたっています。

数理科学や
デジタルの
知識、素養

行政スキル

数理・デジタル系

こんな思いを持っている方なら、力を発揮できるフィールドが待っています。

人のため、社会のために 役立ちたい

国家公務員は国民の奉仕者として、公共の利益のために勤務しなければなりません。様々な状況におかれている人々に目を向け、社会に貢献したいという気持ちが大切です。

周りの人と連携しつつ 自分の力も高めたい

分析業務やシミュレーション、制度の企画立案は自分一人ではできません。職場の同僚や専門家意見も聴き、自己研鑽もしながら、話をまとめたり、提案する必要があります。

大きな改革に チャレンジしたい

社会は常に変化し、そのスピードは日に日に上がってきています。これまでの考え方にとらわれない柔軟な発想力で、社会全体をよりよい方向へと変えていく意欲が重要です。